

玄奘三蔵院

この複合施設は、玄奘三蔵（602–664）に捧げられたものです。玄奘三蔵は薬師寺に本部を置く法相宗の核となる教えを最初に伝えた中国の僧です。

玄奘は若き僧として中国を旅した際、祖国の仏教經典に見られる不備や矛盾に気づきました。わずか20代で、彼は外国旅行を禁じる布告を無視し、仏教の聖典を求めて長安（現在の西安）からインドまで徒歩で旅しました。

強盗に悩まされるなどの困難にもかかわらず、彼は任務が完了するまで東へ、家へ帰らないと誓いました。その後17年にわたって、彼はインドに向かい、途中で仏教遺跡や遺物を訪れ、特にヨガチャラ学派に関連する經典を収集しました。ヨガチャラ学派は日本では唯識または法相として知られています。合計30,000 km（世界の周囲の4分の3）を旅した後、彼は何百もの仏教經典とともに645年に帰国しました。東アジア各地からの学生と協力者の援助、皇帝の支援を受けて、彼は翻訳局を設立し、次の19年間に中国語翻訳に費やしました。彼は東アジアの仏教宗派の尊敬すべき經典である般若心経を含む1,335本の巻物を作ったと考えられています。

巡礼の後、玄奘の第一の目的はヨガチャラ派の言葉を広めることでした。彼はそれを弟子の一人、日本では慈恩大師に託しました。慈恩大師によって法相宗が誕生し、道昭という、653年に中国に渡り玄奘三蔵に師事した日本人僧侶によって、学派が奈良にもたらされました。